

松山道後温泉map



散策メモ
正岡子規
 松山市出身の俳人、歌人。秋山真之とは同級で、お互いに切磋琢磨し合う親友だった。新聞記者として日清戦争に従軍したその帰国途中に大咯血し、永い病床生活に入る。病いに臥せつつ書いた「病牀六尺」は現在も多くの人に読まれている。結核と脊椎カリエスにより34才で亡くなった。

初代道後湯之町町長、伊佐庭如矢氏が道後温泉の繁栄を願い、明治27年「100年先も他所が真似できない物を」をテーマに、三層楼の道後温泉本館を建設した。ぎやまんガラスを多く取り入れたハイカラなデザインは人々を驚かせ、すぐに松山のシンボルとなった。道後温泉本館は次の100年を目指し、2019年から保存修理工事に入っている。

松山市出身の三傑の一人、「日本騎兵の父」と云われた陸軍大将、秋山好古の墓。秋山好古、秋山真之、正岡子規を主人公にした司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」は、2009年にテレビドラマ化され、大きな反響を呼んだ。

色鮮やかな社殿を持つ神社。

四国お遍路の51番目の札所。境内は広く、見応えがある。マントラ洞窟と呼ばれる160m続く洞窟があり、抜けると奥の院の正面に出る。

湯築城は伊予国の守護であった河野氏が14世紀前半から16世紀末にかけて居城としていた城。豊臣秀吉の四国攻めにより、小早川隆景に城を明渡すことになった。

